

文芸の広場

短歌、俳句、川柳、五行歌：短い詩形でふるさとを、日常を語るとき、その思いはいっそう強くなるのではないだろうか。

◆短歌

若き日の旅

いまはむかし鹿鳴集を愛でし日々猿沢池を傘さして巡りし
降りたちし橘寺は小駅なりしわが紅顔も小粒なりしが
はつ夏の風うけて漕ぎぬ貸自転車石舞台への道いまも目に見ゆ
吉野杉みがき丸太と教わりし民宿という宿の庭にて
明日香恋い恋文送りしかの村の役場のおとめ応答なかりき

今宮郊戸八幡宮を拝す

石段を二十三段登り来て郊戸八幡こうどの随神門くぐる
随神門に隣る吹き抜けの絵馬殿に奉納の絵馬の数々見上ぐ
石段を更に四十登り来て郊戸八幡本宮に拝す
八幡宮に地続きの五平餅で有名な今宮半平いまみやはんぺい本日休み
半平に隣る今宮球場は球児ら声上げ汗かき励む

友よ

故郷に向かう高速ひた走る友と語るを胸に弾ませ
今は亡き心のなかにいる友の唄うシャンソン懐かしきかな
傘を差し見るのも楽し寒桜親しき友とめぐる鴨川
鴨川の静かな海を眺めつつ余生のことを思う日々なり
このごろの計報を受けて思いしは一期一会の今ぞ尊き

三春への旅

新白河駅の前で
白河の 駅前に立つ 芭蕉像 三春への旅 見送りており
三春枝垂れ桜の威容
三春の地 神にも似たる 滝桜 葉桜になり 台地を蓋う
城内の展示物の数々
鶴ヶ城 城主を思い 郷思う 会津の心 隅々にあり
何度聴いても胸を打つ

白虎隊 改めて聴く 飯盛の 忠義の殉死 涙を誘う

猪苗代湖の水と会津の地

磐梯の 猪苗代湖の 水を得て 会津の里に 水田拡がる

牧内雪彦 (中47回)

●まきうち・ゆきひこ
昭和6年1月飯田市川路天竜峽生まれ。小学6年で石川啄木を知り、青年期に吉井勇の歌に惚れて自ら真似歌を作る。やがて好きな歌人は続々と出たが、終始独りだけの趣味に止まり、独りよがりの記録メモ歌を愉しむ。故郷ゆかりの歌集では、恩人・熊谷寛夫人熊谷とき子歌集『草』『かよひ路』、岡村隆臣歌文集『歲月茫茫』、今村藤一郎御母堂百歳記念今村きみ歌集『庭の老松』などを愛蔵。

奥村晃作 (高7回)

●おくむら・こうさく
「今宮郊戸八幡宮」に隣接して「飯田市丸山公民館」がある。そこを会場に超結社の歌人の集まりである「赤石短歌の会」が開かれる。本年6月の例会は5日(火)の午後行われた。150回目の会であった。年10回として、15年(以上)続いている。宿泊は飯田駅に近い東和町の実家。妹夫妻のお世話になる。

佐々木康夫 (高15回)

●ささき・やすお
飯田市出身。最近、趣味の陶芸に加えて、日々、心を過ぎることや身の回りで起こる小さな出来事を、五七五七七のかたちに書き留めるようになりました。忘れられない亡き友や、今も大切な友人達への想いがついほとばしってしまいます。短歌の世界に入門したばかり。多くの方々短歌を読んで、勉強中です。

脇坂英文 (高17回)

●わきさか・ひでふみ
平谷村出身。この春、福島方面に旅。白河を出て東部三春を経て、裏磐梯で1泊。翌日会津若松へ。鶴ヶ城、白虎隊の地を経て会津鉄道乗車、下野街道大内宿などを散策。当初、名桜を求めての旅であったが、今年が開花が早く、どこも葉桜。とはいえ、名ガイドの丁寧かつウィット溢れるコメントで心に残る旅であった。